

令和7年2月3日

世田谷区立代沢小学校  
校長 諸角 哲男 様

世田谷区立代沢小学校  
学校関係者評価委員長  
須貝 信

## 令和6年度 学校関係者評価委員会報告

本年度は、コロナ禍前に戻ってスタートした一年でした。社会も経済も平時に戻りましたが、冬にはインフルエンザの大きな流行があり、感染症対策は引き続き必要と感じました。

平成元年から36年続いた舟形交流を、代沢小学校としては本年度で終了するとの発表があり、寂しさを感じる一方で、学校行事や地域の行事は盛んに行われて活気に満ちた一年でした。

社会では、教職に関わる議論が多くなされており、働き方についての対応も必要であると思いますが、それとマッチした形で本年度の評価を経営方針の参考にしていただければと思います。

<回答率：地域以外はオンライン回答のため対象人数に対する回答数で算出>

保護者	472人	72%	(339回答)
児童	194人	94%	(183回答)
地域	54人	59%	(32回答)

## I 重点目標への取り組み

代沢小学校は、「自分で、進んで、負けないで」を教育目標とし、よく考える子、思いやりのある子、元気な子を育てることに、継続的に力を注いでいる。「社会とつながり未来を創る子供の育成」を基本方針とし、教職員、保護者、地域が一体となった「チーム代沢」で、「みんなの子どもをみんなで育てる、みんなの学校をみんなで創る」ことにとりくんでいる。

### 重点目標 1 主体的な学び

学力の基本である学ぶ意欲を高め、自らすすんで学習課題をもち、主体的に解決しようとする能力や態度を育てることを目指している。

生活科・社会科を中心とした校内研究の充実、地域の文化、歴史、人、自然などの身近な教

材活用、子どもが主体性を發揮できる探究的な授業の充実、個人を大切にした指導、自分で考え、伝えられる子の育成、ICT 機器の学校及び家庭での有効活用、地域の人材、施設の活用、読書活動の推進、環境教育の推進、「代沢小学校の基本」を基準とした学習指導、教育環境の整備を行うことを目指している。

#### ＜成果＞

- ・ 高学年児童の 85%（前年度 87%）が、授業で学習することについて、自分自身でよく考え解決しようとしていると回答している。子どもが自分の考えを持とうとしているか、そういう学習が進められているかという保護者と地域への問い合わせに対しては、それぞれ 72%（前年度 73%）、66%（前年度 73%）の肯定的な回答があった。保護者アンケートは、全学年の保護者にむけてのものであり、おおむね低学年保護者からの評価は低く、それ以降の学年保護者の評価は高くなる傾向があり、6 年生保護者では 80%に達している。授業での学習で自分の考えをもたせることは、低学年では難しいので全体的には成果がみられる。地域が教育活動の場に対面参加する機会が戻ってきてはいるが、分からないとする回答が 34%あり、66%の回答は全て肯定的であった。
- ・ 授業で自分の考えを話したり、書いたりして伝えようとしているかという問い合わせに 82%（前年度 82%）の高学年児童が肯定的に回答している。子どもがそうしているか、そういう学習が進められているかという保護者と地域への問い合わせに対しては、それぞれ 76%（前年度 75%）、66%（前年度 69%）の肯定的な回答があった。全学年の保護者に向けたものであるが、低学年から 70%を超える結果が得られていることから成果であると評価する。分からないとする地域の回答が 34%（前年度 31%）あり、教育活動の場を積極的にみている方からは、肯定的な回答だけが得られている。

#### ＜課題＞

- ・ 地域の人や施設を教育活動に活かしているかという問い合わせに保護者の 70%（前年度 71%）、地域の 69%（前年度 73%）が肯定的に回答している。前年度、コロナ明けの地域参加機会の増加に伴って向上が見られたが、学校運営方針のひとつとして挙げるならば、更なる積極性が求められる。
- ・ タブレット学習に関して、本年度も保護者より様々な意見が寄せられた。端末使用時間が長いことによる健康被害、授業中、休み時間、家庭学習中での他用途での使用がコントロールできない等の懸念がある。一方、オンライン授業やオンライン保護者会など、更なる ICT 活用の要望もあった。学びの道具として支給されるタブレット端末が目的に沿って有効に利用されるように教職員、保護者の共通理解と連携に努力してほしい。

### <その他>

- ・ 「目標を持ち、実現に向けて努力している」とする高学年児童が 78%（前年度 84%）であった。この問は、例年代沢小独自のものであったが、前年度から世田谷区のキャリア教育関連の共通項目となった。全学年保護者に対しては、教員が子どもに目標を持たせ、その実現を支援しているかという問い合わせになっており、肯定的な回答が 62%（前年度 60%）、分からぬ 21%となっている。高学年児童、全学年保護者に対して、キャリア教育（よりよい人間関係の項目）として問うことは、主体的な学びを評価する従来の意図から外れていると思われる。今後、独自項目として何らかの問を設けたい。

### 重点目標 2 よりよい人間関係

思いやり、感謝の心をもって自らすすんでよりよい人間関係を形成しようとする態度や能力を育てることを目指している。豊かな人間関係の基礎となる言語環境を整える。あいさつ、適切な言葉遣い、人権に配慮した言動（例 代沢しぐさ）などを、教職員が範を示し互いに改善を図る。子どもの個性や発達特性を理解し、教職員間で情報共有して個人に応じた指導を充実させる。

不登校の防止、「代沢小学校いじめ防止基本方針」に沿ったいじめの防止、早期発見と対応、特別活動と連携をはかり「チーム代沢」ですべての児童に自尊感情・自己肯定感の育成を図る。また、キャリア教育、異学年交流（せせらぎ班交流）、舟形交流、幼保小の円滑な接続にむけた交流など、幅広い人間関係の機会を与えようとしている。

### <成果>

- ・ 自分の住んでいる町を大切にしようとしているかという問い合わせに、84%（前年度 81%）の高学年児童が肯定的に答えている。同様の設問は保護者や地域に無いが、高学年児童は、地域に愛着を持ち、大事に思っていることがうかがえる。
- ・ 高学年児童の 90%（昨年度 87%）が「代沢しぐさ」など相手を大切にする行動を心がけていると回答している。同様の問に対する保護者の回答、地域の回答は、低くなってしまっており課題とする。
- ・ 高学年児童の 90%（前年度 88%）が児童会活動（委員会、クラブ活動）では、自分たちから活動することができたとしている。保護者全体の評価は 63%（前年度 64%）であるが、4 年生以上の保護者回答では学年が上がるにつれ、約 8 割以上の肯定的評価が得られている。3 年生以下の児童保護者の回答では、分からぬという回答が低学年ほど多い。児童会活動は高学年を中心のものであるので、当然の結果と思われる。地域の回答は、56%（前年

度 62%) が肯定的なものであり、残りの 44%は、分からぬ、であった。この項目に関しても、地域の関与の割合がやや減っているようにみえる。

・舟形交流やせせらぎ班活動を通して人との関わり合いを広げることができたという間に 90%(前年度 82%)の高学年児童が肯定的に回答している。舟形交流が終了することを踏まえ、本年度は、せせらぎ班活動も含めての問い合わせとなつた。舟形交流は、都会の代沢と自然豊かな舟形の子どもたちがホームステイをし合い、学校、地域ぐるみの歓迎をして友情を育むという特色のある教育活動である。家庭環境の変化、学校の統廃合、新型インフル、コロナ禍など、様々な状況の変化に対応して、36 年間継続してきた。代沢小の児童数増加に伴い、本年度、最後の舟形交流を代沢小をホスト校として行った。舟形交流（滞在交流は 5 年生のみ 前年度はサポート校）に対する高学年児童の評価は、例年大変高い。全保護者による肯定的な評価は 76%（前年度 74%）であるが、舟形交流学年の 5 年児童 91%（前年度 84%）、5 年保護者 90%（前年度 82%）から良い評価が得られた。保護者からも終わりを惜しみ、代わりとなる交流活動を求める声もあがつた。

地域に向けた同様の問い合わせに対しては、69%（前年度 77%）の肯定的な回答があつた。分からぬという多数回答とともに否定的な回答も僅かにあつた。異学年、地域、新しい仲間たちとの関わり合い、思いやり、感謝の気持ちを持って、良い人間関係形成をはかるという代沢小の特色ある教育活動をこれからも工夫して続けていって欲しい。

#### <課題>

・全学年保護者としては、「代沢しぐさ」(相手のことを思いやる言動)をもとにして、相手を大事にする行動を心がけているとする回答が 66%（前年度 65%）にとどまっている。こどもの学年が上がるにつれ肯定的な回答が多い傾向がある。引き続き、「代沢しぐさ」とその具体的な内容を保護者にあまり積極的につたえられていない。相手を思いやる言動を身に着けさせることが目的であるので、名称にはこだわらないが、具体的にどういうふるまいをするのが良いのかを示した方が良い。教職員が範となるという態度は、評価できる。

・子どもが地域の方にも相手を大切にするふるまいができるようになっているかという地域への問には、59%（前年度 73%）が肯定的に回答している。見守って頂いている地域の方々へも気持ちの良い言動が向けられるようにご指導頂きたい。

・授業で地域との関りを感じたり、考えたりしているかという問い合わせに対する保護者の回答は、63%（前年度 66%）肯定的、22%（前年度 23%）否定的、15%（前年度 11%）分からぬ、という結果であった。せせらぎ班活動が復活して数値の改善がみられた前年度とかわらない状況であるが、地域との関わりがやや薄れていようである。

### 重点目標 3 健やかな心身

健やかな心身を目指し、自らの体力の向上や健康安全の推進に取り組む態度や能力を育てるとともに、はつらつと学校生活を楽しむ心情を育てる。

子どもの心の安定と体力の維持・向上に努める。ランランタイムの企画（ラジオ体操、持久走、長縄など）で意欲を喚起、まず安全に配慮した上で運動量を確保した体育授業の充実、外遊びの奨励などで体力づくりに取り組む。

また心の健康につながる道徳教育の充実を図り、自尊感情、規範意識、道徳的価値への自覚を高め、道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度を育てるこことを目指している。

#### ＜成果＞

・けがなく安全に過ごすために、自分でよく考えながら生活することができているか、という問い合わせに対して 82%（前年度 85%）の高学年児童が肯定的に回答している。同様の問に対する肯定的な回答は、保護者 83%（前年度 80%）、地域 88%（前年度 81%）であった。安全に生活する意識は高く保たれている。

#### ＜課題＞

・ランランタイム、外遊びや体育学習で進んで運動に取り組んでいるという高学年児童が 77%（前年度 83%）であった。朝の運動（ラジオ体操、持久走、長縄跳び）、外遊びの奨励や体育学習を通してこどもが運動に親しんでいるかという問い合わせに対して、76%（前年度 74%）が肯定的な回答をしている。同様の問に対して、地域の回答が 84%（前年度 88%）であった。これらは、成果とも課題とも言える結果であった。児童数に対する運動スペースの制限や、猛暑の影響等、安全面の懸念もあったのではないかと推察される。タグラグビーの活動を評価する声があったが、様々、楽しく体を動かせる工夫を期待する。

### 重点目標 全般

保護者の 53%が重点目標を理解しているとしており（前年度 76%が伝えられていると評価）、地域の 94%（前年度 89%）が目標は明確であるとしている。毎月の学校だより「代澤」で重点目標への取り組みを伝えるなどの努力がみられ、重点目標の認知度は上がっていると思われるが、保護者が理解しているかと問われると 23%評価を下げている。

ICT 活用の問題、増加する児童数、特別支援が必要な児童の増加による設備、人員不足などが、依然問題となっている。前年度は、コロナの制約が解け、様々な活動に取り組んで教職員の自己評価の向上がみられたが、本年度の教職員の自己評価では、73%の項目が評価を下

げている。対応する行事の多さにも疲れがみられる。働き方改革も問題となる中、多様な業務全てに力を注ぐことが難しくなっている。地域行事への関わりに関する肯定的なコメントもあったが、地域との関わりという面では、保護者、地域、教職員ともに、評価を落としている。学級数が増えることにより、クラス間の差や担任との相性など、不満も発生する。設備、人員に限りがある中で、両立しない目標も多々あると思われるが優先度をつけ、活動や行事の見直しをする必要がある。例年、あまり変化のない総花的な重点目標であるが、年度毎に優先度をつけて、保護者にも分かりやすく発信し、具体的に取り組んだ成果を独自項目で問うような評価が望ましい。

## II. 地域とともに子どもを育てる教育

### 1. 保護者・地域との連携

<現状>

当該の「地域との連携による教育」に関する地域アンケート結果を、「肯定的回答（「とても思う」「思う」）・否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）・「分からぬ」の項目別に記す。

#### (1) 「肯定的回答（「とても思う」「思う」）

以下の4項目は、「とても思う」「思う」が、以下の数値で評価された。

- |                                   |     |
|-----------------------------------|-----|
| ・通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。      | 94% |
| ・学校行事の内容は充実している。                  | 94% |
| ・学校の重点目標が明確である                    | 94% |
| ・学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子が分かる。 | 94% |
| ・学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。           | 94% |

#### (2) 否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）

以下の3項目は、令和5年度は「あまり思わない」「思わない」の評価が70%超えていた項目だが、令和6年年度は以下の数値で評価された。（ ）は令和5年度。

- |   |          |
|---|----------|
| ・「学び舎」の活動について、情報が提供されている。                 | 25%(77%) |
| ・学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。                | 20%(77%) |
| ・学校は子どもたちが、地域の方にも相手を大切にするふるまいができるようにしている。 | 25%(73%) |

#### (3) 「分からぬ」

以下の3項目は、令和5年度は「わからない」の評価が70%前後の項目だが、令和6年年度は以下の数値で評価された。（ ）は令和5年度。

- ・学校は子どもたちが授業で、自分の考えを話したり、書いたりして伝えることができる  
ように学習を進めている。 34%(69%)
- ・学校は子どもたちが、児童会活動(委員会、クラブ活動など)を通して、自分たちで活動  
する力をつけるようにしている。 44%(61%)
- ・学校は子どもたちが授業で、学習することについて、自分の考えをもてるよう<sup>に</sup>学習を  
進めている。 34%(73%)

#### <成果>

まず「肯定的回答(「とても思う」「思う」)については、令和6年度・5年度共に学校教育・学校運営の重要な部分を占める項目が高評価を得ている。「学校の重点目標が明確」「学校行事が充実している」ことは教育と運営について、「学校からのお知らせの充実」は広報・広聴にかかわることである。

「子どもたちが、地域の方にも相手を大切にするふるまい」は代沢しぐさが定着しつつあることを意味する。学校教職員の方々の教育・学校運営・地域対応などの地道な努力と、保護者・地域住民との連携の成果として高く評価できる。今後も、成果が持続することを望みたい。

また、評価項目の「否定的回答」や「分からない」といった負の側面を持つ数値も令和6年度は5年度に比して大幅に減少して来た。いずれも学校の教育内容の地域住民への周知と理解にかかわる項目である。

これは、4年間の新型コロナ感染症拡大事象(以下・コロナ)の影響で学校と地域社会・地域住民のコミュニケーションに制約があったものが、終息に合わせて、地域住民と学校との接触密度が高まり数値の向上につながったものと考えられる。「アフターコロナ」時代の新たなコミュニケーションの進展を、世田谷区の教育の3つの柱である、学校教育・家庭教育・地域教育を意識して地域社会の一員として共に創りたい。

#### <課題>

課題として、以下3点を記したい。

##### ① コロナ終息後の学校運営在り方

コロナは終息しつつあるものの、まだ罹患する人もある状況である。引き続き一定の注意が必要と思われる。またコロナ下で導入されたタブレット端末利用は新たな学習体制とコミュニケーションの手法という側面をもつ。オンライン活用を含む新たな教育体制・学校運営・地域とのかかわり方が進展することを願いたい。

##### ② 通学路の様子・地域社会とのつながり

評価結果からも通学路での子供たちの交通ルールは、よく守られている。朝の登校時を中心に、地域住民有志が通学路の要所に立ち、安全確認や挨拶などを交わしつつ見守り活動を続けている。そこで交通ルールと関連の深い通学路の様子を、活動参加者の声を聞き取ったので代沢地区・代田地区・その他に分けて記す。

#### <代沢地区>

- ・交通ルールはもとより、挨拶も積極的に交わしてくれる。今後もこうした関係性が保たれることを望みたい。
- ・低学年では、おしゃべりやじやれあいに夢中になり路地の交差点などで左右を見ないで渡ろうとするので、そういうときは「よく見て渡ろうね」と呼び掛けた。

#### <代田地区>

- ・代田地区でも地域住民が通学路で登下校時間帯の児童たちの見守り活動を行っている。地域の人たちとあいさつを交わし、交通ルールを守って登校している。

#### <その他>

- ・代沢地区・代田地区では大規模な建設工事が展開されている。主なものは①代沢2丁目茶沢通り沿道のマンション建設工事、②代沢4丁目計画(旧三菱重工跡地の大規模マンション建設)、③代沢5丁目旧東邦薬品本社の解体工事と再開発工事、④さくら花見堂南側の斎田家の再開発工事などがこれにあたる。この他にも、代沢・代田地区では個人住宅や集合住宅の新築工事が各所で行われている。

いずれの工事も児童たちの通学路や通学路に至る枝道の沿道で行われており、通学路の安全確保は最重要課題である。通学路やスクールゾーンにおける登下校時間を意識した大型車の出入と走行の制限、工事の進捗状況の把握、事業主や工事関係者との意思疎通を、意識して行う必要性がある。

### III 「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育の推進

#### 1 学習指導

##### <成果>

①5、6年生児童の学習指導に対する評価は全般に高い傾向にあり、各質問項目に対する肯定的回答(「とても思う」と「思う」の合計割合を「肯定的回答」とする。以下同様)は、以下のようになっている。

- (1)「先生は、課題(めあて)について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」94%
- (2)「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」86%
- (3)「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」94%
- (4)「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」90%

全体として、昨年度とほとんど変わりない高い割合であり、高いレベルを維持していると言える。

②保護者全体(1-6年合計)の学習指導に関する評価について、各質問項目に対する肯定的回答は、以下のようになっている。

- (1)「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている」81%
- (2)「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」68%(前年75%)
- (3)「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある」86%
- (4)「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」75%

(2)以外は高評価であり、保護者にも代沢小学校の学習に対する自発的、能動的な取り組みを促す授業が行われていることが伝わっていると評価することができる。

#### <課題>

評価的には代沢小学校としては珍しく低評価である下記の項目について述べる。

- (2)「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」68%

この点に関しては児童の評価は高いので問題は無いと思われる。現状はデジタルとアナログの2本立ての授業形態であり、たまたま参観で見た授業がどちらであったかで答えていれば肯定的回答が減る。または古いアナログに工夫が無いという印象を受ける場合もあるだろう。元々デジタル授業が定着する中では授業の工夫という設問一つで良かったのかもしれない。ここでは国の方針からデジタルへの流れは進んでいくと思われるが、その中でも黒板やプリントの良さのようなを取り入れる現場の知恵のようなものがあれば共有して取り組んで欲しいということを提言したい。

## 2 生活指導

#### <成果>

①5、6年生児童の生活指導に対する評価は全般に高い傾向にあり、各質問項目に対する肯定的回答は、以下のようになっている。

- (5) 「私は、学校のきまりを守って、行動している」 81%
- (6) 「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している」 81%
- (7) 「先生に注意されたことは、理解できる」 86%

いずれも肯定的回答が 80%を上回っている。児童たちは、教員の生活指導のあり方に対して、ほぼ納得していると見てよいであろう。

- ③ 地域の方々による「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」との質問項目に対する肯定的回答は、94%となっており、昨年度より大幅に up した。地域と共に取り組んだ成果と考えられる。

#### <課題>

②保護者(1-6 年合計)の生活指導に対する肯定的回答の割合は、5、6 年生児童に比して低い傾向にあった。

- (5) 「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」 74%

- (6) 「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している」 76%

5,6 年の児童には 80%の割合で納得が得られている生活指導について保護者にはそこまでは伝わっていないという評価である。指導をしている方も 70%台なので、代沢しぐさもその一つと思うが、生活指導の取り組みも「代澤」でお知らせするなどの方法もあるかと思う。

### 3 学校行事

#### <成果>

① 5、6 年生児童の学校行事に対する評価は全般に高い傾向にあり、各質問項目に対する肯定的回答は、以下のようになっている。

- (8) 「学校行事は楽しい」 90%
- (9) 「学校行事は達成感がある」 86%
- (10) 「先生は、児童の意欲を大切にしている」 83%

②保護者(1-6年合計)の学校行事に対する評価も、昨年度と同様に非常に高いものであった。

(7)「学校行事は、子どもにとって楽しい」96%

(8)「学校行事は、子どもにとって達成感がある」92%

(9)「本校は、子どもの意欲を大切にしている」83%

④ 地域の方々の学校行事に対する肯定的回答の割合は、高かった。

「学校行事の内容は充実している」94%

「事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある」81%

#### <課題>

学校行事に関して、アンケート数値を見る限り、現状、明確な課題は見当たらない。

### 4 キャリア教育

#### <成果>

① 5、6年生児童のキャリア教育に関する質問項目についての評価は低く80%以上の項目は無かった。

#### <課題>

① 5、6年生児童のキャリア教育に関する、肯定的回答は以下の通りであった(括弧内の%数値は「分からぬ」との回答)。

(11)「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある」71% (10%)

(12)「目標をもち、その実現に向けて努力している」78% (8%)

(13)「区立中学校に関する情報が提供されている」50% (25%)

(11)は肯定的回答の割合が向上、「分からぬ」が減少した。(12)(13)は肯定的回答の割合が減少した。このうち、(13)に関しては、5,6年で回答傾向が大きく異なり、肯定的回答の割合は、5年生児童35%、6年生児童72%であった。6年生児童に関しては、「区立中学校に関する情報」に接する機会は比較的多いものと思われる。

② 保護者(1-6年合計)のキャリア教育に関する質問項目についても、肯定的回答の割合がかなり低かった。各質問項目に対する肯定的回答は、以下の通りである。(括弧内の%数値は「分からぬ」との回答)。

(10) 「本校の教員は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している」 62%  
(21%)

(11) 「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている」 43%  
(32%)

③児童、保護者とも肯定的回答の割合が低い傾向が続いている。小学校高学年段階で、「自分の生き方」や「将来」について考えるのは容易ではなく、日々の学習・生活指導に支えられた、能力向上や人格形成の先に見えてくるものであると考えられるので、肯定的評価の低さがそれほど大きな課題であるとは言いがたい。

ただし、子どもたちがそれぞれに目標を持つことは、自律的に成長する意欲につながり、大いに意義がある。実際には、学校としても、多彩な技能・能力を持つ地域の方々や保護者たちの協力を仰ぎながら、多様な子どもたちがそれぞれに心を動かされ、目標を持って熱心に何かに取り組む契機となるような、さまざまな機会を提供してきているものと思われる。それらを体系的に整理し、必要であれば拡充を図り、児童や保護者に対して、より認識しやすい形で示す必要があろう。

## IV 信頼と誇りのもてる学校づくり \*（ ）は前年度の数値

### 1 学校運営について

「学校運営について」の保護者アンケートのうち、肯定的評価（「とてもそう思う」「思う」）の結果は、以下の通りである。

- ① 保護者「本校は保護者に学校の重点目標を伝えている」 79% (76%)
- ② 保護者「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」 78% (77%)
- ③ 地域の方々「学校の重点目標が明確である」 94% (89%)

### <成果>

以前のように、保護者や地域の方が実際に教育活動を参観する機会が得られるようになったことで、実際の学校の姿もよくみえてくるようになってきたのではないかと考える。まず、学校運営の根幹となる学校の考え方（重点目標）についての理解は、保護者、地域とも昨年度よりもさらに高い評価を得られた。

①の学校の重点目標（「主体的な学び」「よりよい人間関係」「健やかな身体」）の明確化や啓発については、毎月の学校だより「代澤」の一面において、重点目標にあわせて月ごとにどのような取り組みを行うかを説明している。このように年度初めだけでなく、毎月の教育活動にあわせて説明している学校便りはあまり例がない。学校としての努力が伺える。そして、三つの目標＋学力向上について、（研究推進担当）、（特別活動担当）（体育行事担当）

(学力向上部) がその紙面を担って説明するところが組織的な取り組みとして評価できる。特に、地域の方からの評価が大幅に向上したのは、この学校便りの他、地域の方々の集まる会での学校側の説明が分かりやすく、浸透してきているともいえる。

学校教育の方針は、管理職や特定の教員だけでなく、一人一人の教職員が意識をもって保護者や地域の方と接すること、つまり学校運営への教職員の意識と組織的な取り組みによって浸透していく。その意味で、ここ数年の努力によって信頼される学校づくりの基盤がつくられてきていることが分かる。

#### <課題>

①の本校の重点目標の啓発については、少しずつ保護者からの理解が高まっているものの、この項目については学校運営の根幹だけに 80%を超えたところである。学校便りやホームページにおける啓発はかなり充実してきているので、年度当初の保護者会における説明や校内の掲示物などで更なる工夫ができると考える。また、②の教職員の協働性については、肯定的な評価が昨年度よりも 1 ポイント高くなった。一方で結果をみてみると、12%が「分からぬ」と回答している。教職員の協力については、学校公開や学校行事、保護者会等で感じられることであるが、なかなかみえにくいのかもしれない。しかし、この項目は、学校を評価する上で重要な項目の一つなので今後も継続して評価していただきたい。この項目についての教職員の自己評価は、昨年度に比べると若干低くなっている。当事者である教職員の評価は、実際の状況を表しているともいえる。今年度は、昨年度のように大きな研究発表会がなかったことがなかったため協働性を意識しにくかったことも低くなった一つの要因かもしれない。いずれにしても、学級・学年・学校経営は組織的に行うことが重要であり、教職員の協力についてはその取り組み過程においてみえてくることである。どのような場面で評価していくのか、その点を保護者や地域の方々に丁寧に説明していくことが求められるかもしれない。

## 2 教職員について

保護者の教員に対する肯定的評価の結果は以下の通りである。

- ① 「本校は、丁寧に指導している」 85% (82%)
- ② 「本校は、子どものことを相談しやすい」 77% (77%)

児童の教員に対する肯定的評価の結果は以下の通りである。

- ③ 「先生たちは、ていねいに指導している」 91% (92%)
- ④ 「先生たちに相談できる」 65% (74%)

教職員の指導や相談のしやすさについては、児童の評価よりも保護者の評価の方が高い。しかし、保護者の評価は昨年度よりも高くなつたが、児童の評価は低下している。

#### <成果>

「児童への丁寧な指導」については、保護者では昨年度より 3 ポイント高くなり、児童に

については昨年度より 1 ポイント低くなったものの 90%を超える高い評価であった。学習指導についての児童の評価項目をみると、例えば、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価が 86%、「先生は映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」が 90%と高い評価が得られており、教員の学習指導は丁寧に行われているといえる。実際、中学年、高学年の授業では、タブレットを効果的に活用しながら主体的に取り組む児童の姿が学校公開や研究発表会などで多くみられるようになった。

また、数年継続してきた社会科の研究において力を入れて取り組んできた「話し合ったり発表し合ったりする」ことについては、今年度も 94%と非常に高い評価となっている。こうした授業力向上に向けた取り組みが、「丁寧な指導」への評価につながっていると考える。

また、「先生への相談」でも、保護者の評価は昨年度よりも上昇した。学習や学校生活のこと、友達のこと、家庭のことなど、特に高学年になると見えにくくなる傾向もあるので、まずは、担任に気軽に相談できるようになること、評価としては 80%を超えていくことを今後期待したい。

#### ＜課題＞

「丁寧な指導」ということでは、タブレットの有効活用については一定の成果をあげている。ただ、タブレットの活用については、今年度も保護者から複数の意見が寄せられている。活用方法についての丁寧な指導や効果的な活用場面など、今一度教職員はもちろん保護者にも児童の発達段階も踏まえて丁寧に説明する必要があると感じる。これは、本校だけの問題ではないが、タブレット導入から数年が経ち、効果や課題を検証する時期にきていると考える。

また、「児童や保護者の相談しやすさ」については、保護者の評価は昨年度と同様であったものの児童の評価が 9 ポイント低下している。具体的にみると、児童の 27%が否定的な評価であった。評価対象は高学年の児童であるので、何でも先生に相談という時期ではなくなってくることは理解できるが、この数値をどう捉えるかは十分にふりかえる必要がある。この結果を踏まえると、高学年では教師側からよく児童を観察、理解することが改めて重要なことが分かる。この項目の保護者の評価については、学年によって差がある。教職員一人一人の児童や保護者とのコミュニケーションは、互いの信頼関係の構築に大きく影響する。学校と家庭の考え方は、必ずしも一致するものではない。学校にもできることとできないことがあることは理解できる。それでもこれからの教育が、学校の力だけでは十分に行えないことを踏まえ、引き続き一人一人の児童の理解に努めるとともに、今後も保護者・地域と共に教育を考える姿勢を大事にして学校教育を進めていただきたい。

### 3 学校からの情報提供について

保護者アンケートの肯定的評価の結果は以下の通りである。

- ① 「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」 86% (81%)
- ② 「『学び舎』の区立（幼稚園・）中学校について情報が提供されている」 31% (39%)

- ③ 「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」 91% (92%)
  - ④ 「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」 85% (81%)
- 地域アンケートの「広報活動・情報提供について」の肯定的評価の結果は以下の通りである。
- ⑤ 「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる」 94% (100%)
  - ⑥ 「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」 78% (85%)
  - ⑦ 「『学び舎』の活動について、情報が提供されている」 72% (77%)

昨年度との比較では、保護者アンケートでは項目によって評価に温度差が生じ、地域アンケートでは昨年度と同様の結果となった。

#### ＜成果＞

保護者アンケートの「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している」では、昨年度よりも高い評価が得られている。学校からの情報提供については概ね安定していたと考える。また、「学校公開や保護者会などで児童の様子が分かる」の評価が昨年度に続き、90%を超えたことからも、実際に教育活動の様子をみていただくことの重要性が分かる。「学校の広報活動・情報提供」について、地域からも昨年度と同様に高い評価が得られた。学校だよりの内容、ホームページの更新が一定の成果をあげていると考えられる。また、「学び舎」の情報提供については、地域の方々は保護者に比べてかなり高い評価となっている。学校運営協議会や学校関係者評価委員会等における直接の説明が功を奏していると考えられる。

学校は様々な方法で家庭や地域に情報を発信しているものの、保護者の場合には、直接説明し話しあうことが学校への理解を高めていることを理解し、学校公開や保護者会、学校行事を今後も大切にする必要がある。

#### ＜課題＞

本校に限らず、区内の多くの小学校において、例年、保護者・地域とも「『学び舎』の区立（幼稚園・）中学校について情報提供」が努力目標になっている。今年度は、昨年度に比べて9ポイント減少し、肯定的に回答した保護者の割合は、31%にとどまった。具体的にみると、1～3年生の保護者の肯定的割合は23% (34%)、30% (13%)、33% (42%) であった。中学校への進学が近づく4～6年生では、26% (46%)、31% (35%)、44% (70%) となる。中学進学が近い6年生の保護者の肯定的評価が高くなるものの今年度は昨年度に比べてかなり低くなかった。4年生以上の保護者の情報提供に対する理解度を高めていきたいところである。

昨年度の評価において、富士中の学校説明会への保護者の参加対象の拡大や、6年生の保護者会のあり方、各種便りや校内掲示、ホームページなど、学校単独ではなく、「学び舎」

として具体的な手立てを工夫していくことを提案したが、今一度対策を講じる必要がある。

もう一つ着目したいことは、保護者アンケートの「本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる」と地域アンケートの「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」である。この二つは、情報の質の問題である。保護者からは 90%以上の高い評価が得られているが、地域の方々の情報源となるホームページについては 78%となっている。保護者・地域との信頼関係を築くための重要な手段であるホームページにおいて、児童の教育活動の状況をいかに伝えるかは大きな課題である。したがって、教育活動の予定だけでなく、時に実施後の結果を発信することで、児童の様子がより伝わるのではないかと考える。また、学校が協力を得たいことや困っていることなども伝え、学校・家庭・地域が共に協働して教育を進めていけるようになることを願っている。

## V 安全安心と学びを充実する教育環境の整備

### 1.学校の安全性について

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の割合は以下の通りである。

#### 保護者

- ① 「本校は、安全な学校づくりを進めている」 83%（前年度 81%）
- ② 「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」 90%（94%）
- ③ 「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」 82%（同変化なし）

#### 地域の方々

- ① 「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」 93%（同 92%）
- ② 「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」 88%（同 84%）

#### 独自項目について

##### 5・6 年児童

- ⑦ 「けがなく安全に過ごすために、自分たちでよく考え、判断しながら生活している」 84%（同 85%）

#### 保護者

- ⑦ 「子どもは、けがなく安全に過ごすために、自分でよく考え生活することができている」

82% (同 80%)

#### 地域の方々

⑦「(学校は、) 子どもたちがけがなく安全に過ごすために、主体的に判断し生活することができるようしている」 84% (71%)

#### <成果>

保護者の評価はいずれも 80%以上の肯定的な回答である。毎年②の避難訓練やセーフティ教室などで、子ども安全に関する指導をしているに対する信頼度が高い。子どもたちの参加型の安全指導は、例年の成果として結果を残している。

地域の方々の評価も、昨年と同様で高評価を維持している。

独自項目の「子どもは、けがなく安全に過ごすために、自分でよく考えることに対する意識について」は、児童の 84%は昨年よ 1%低い結果となったが評価は高い。「けがなく」に対しての設問なので、子どもが安心して学校生活を過ごしていることが伺える。

#### <課題>

学校の安全性についての各設問とも、保護者の評価は去年よりいずれも評価が上がっているが、一方で教職員の評価は少し下がっている。去年の結果を真摯に受けとめた教職員一人一人の努力が感じられる結果となっている。

保護者の自由記述より「教職員の負担を考え、地域との交流イベントを廃止しては?」とあるが、一方で「コロナ以降、地域と関わりを推進していないように感じる」とあった。

子どもは学校だけで育てているわけではなく、家庭だけで育てているわけでもなく、地域の中でも育っている。

PTA 役員の方々の働きで、地域と学校を繋ぐ活動が活発になり、今の代沢小学校の安全性が確保されている。今後ますます共働き夫婦が増えることにより、子どもが独りで地域に出る時間が増えるであろう。地域と学校が連携をすることが子どもの安全に結びつく事を理解してほしい。

## VI 学校生活全般

#### <成果>

##### ① 児童（5・6 年生）

「学校生活は楽しい」の項目は両学年とも 80%超の肯定的な回答を得ている。これは、「学校行事は楽しい」（5 年生：93%、6 年生：85%）や、「学校行事は達成感がある」（5 年生：89%、6 年生：83%）、今年度から新たに評価項目となった「学ぶことが楽しい」

(5年生：75%、6年生：82%) がけん引していると思われる。“楽しい”は、すべての学びの原動力である。この気持ちを高めながら教育に向き合ってくださる先生方に、敬意を示したい。

## ② 保護者

- ・「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」の項目において、全学年で80%以上もの肯定的な回答であった。特に2・4・5年生の保護者は90%以上の肯定的な回答をしている。昨年度懸念であった1年生保護者（現2年生保護者）の回答も91%となり、昨年度から13ポイントも上昇した。人員不足で難しい局面であることは依然変わらない状況ではあるが、学校現場の創意工夫と的確な采配により、教育現場の状況が少しずつ改善され、保護者も安心して学校に任せられている現状が伺える。
- ・「本校の教育活動に満足している」「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる」の項目においては、共に70%超の肯定的な回答を得ている。コロナ禍で十分に体を動かす機会を得られなかつた子どもたちもいるため、引き続き児童の体力向上と健康への注力をお願いしたい。

## ③ 当アンケート自由記述より一部抜粋

- ・子どもたちの方から挨拶をしてくれるなど、穏やかな児童が多いのは、土地柄もあるうが、学校方針や先生方のご指導のおかげだと感じている。
- ・積極的なアクティブラーニングや児童同士の意見交換が活発なクラスがある。
- ・人数比の問題の解決が見込めなかつたため、舟形交流の終了は英断であった。
- ・行事への参加も積極的で行事後の日常に戻っていくのもスムーズ。学校と家庭の連携が取れている証拠ではないか。
- ・タグラグビーの活動が児童の体力づくりにとても良いと感じている。
- ・子どものアレルギー関係では、先生方の間でしっかりと情報共有して対応してくださつていて感謝している。

## <課題>

### ① 児童（5・6年生）

- ・「学校行事が楽しい」の項目においては80%を超の肯定的な回答があるものの、「学校が好き」の項目においては、両学年共に80%を超えることがなかつた。地域のリソースを十分に活用し、代沢小学校独自の魅力を子どもたちに伝えていく努力も必要なのではないか。
- ・「学び舎の中学校に行つたり、中学生が来たりする機会がある。」（5年生：26%、6年生：74%）の項目において、特に5年生についての数値が昨年度の調査から17ポイントも下がっている。小学校高学年と中学生の関わりを深めることは、学び舎の意識づけ

にも役立ち、地域との連携を深める一助にもなるため、関わる機会を積極的に作っていただきたい。

## ② 保護者

- ・昨年度から変わらず、「子どもは、家庭で自主的に学習をしている」の項目において、約 40%もの保護者が否定的な回答をしている。当アンケートの自由記述にも散見されたが、自宅でのタブレット端末の使用時間が長いことを保護者が危惧しており、せめて学校から出される宿題については、従来型の紙を使ったものになればと願っている家庭も少なくない。
- ・「「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の項目においては、依然として否定的な回答が多く、中学校進学を見据えた高学年保護者でさえも、肯定的な回答が 5 年生保護者 : 39%、6 年生保護者 : 44%にとどまっている。塾で学習すると回答する 6 年生が 70%を超える中（5 年生では 70%）、進学先の 1 つではなく、候補としてなり得る存在になるためにも、もっと学び舎の連携を深めていく必要性を感じる。

## ③ 当アンケート自由記述より一部抜粋

- ・舟形交流が終了することが残念だが、代わりとなる地域交流や人との関わりを広げる活動ができると良いと思う。
- ・登校が難しい児童のためのオンライン授業を積極的に取り入れてほしい。
- ・課題の目的やめあて、進め方、まとめ方などの見本を示してから学習を始めてほしい。
- ・立ち歩きや先生への暴言・暴力を目にすることがある。担任の先生への負担があまりにも大きい気がしている。

## ●学校関係者評価委員会としての総合所見

### 1. 回収率について

昨年児童の回答率が低かったが 6%改善して 94%となった。地域は回答率が 10%上がった。例年通り評価には十分な回答は得られている。

### 2. 重点目標について

「自ら学習課題をもち、主体的に解決していくとする能力や態度を育てる」重点項目の評価として、昨年より共通項目のキャリア教育の「目標を持ち、実現に向けて努力する」を採用しているが、目標がキャリア教育の目標に限定されて評価されている印象で、独自項目で明確に問う形式に変更した方が良い。

よりよい人間関係では、代沢しげさ、せせらぎ班、舟形交流、自主的な児童会活動などについて高学年児童は高評価している。保護者、地域についても評価は高いが、保護者の

代沢しぐさについては昨年同様評価が低く、具体策が望まれる。「地域の相手を大切にするふるまいができるようにしている」の評価が下がっており、地域の方への言動を見直したら良いと思われる。

健やかな心身は、昨年同様ではあるが高評価。地域の分からぬという回答も前年より更に減っていて着実に取り組めていることが感じられる。

保護者の重点目標の理解が 23%低下しており、「代澤」による伝達の工夫などの継続取り組みは継続しているが、何か別の工夫が必要になっているのかもしれない。

重点目標はかなり項目も多く、教職員の自己評価がやや低い傾向にあった。年度で項目を絞って取り組むなどの工夫があつても良いのではないか。

### 3. 地域とともに子どもを育てる教育について

本年度は全般に地域と学校の連携についてコロナ禍の時期を脱して評価が回復している。今後はタブレットを更に活用した新たな教育体制・学校運営・地域との関わりを期待したい。

### 4. 学習指導について

全体としては高評価を維持していて大きな問題は無いと考えられるが、「黒板の書き方プリントの工夫」が低評価となった。現状はデジタルとアナログのハイブリッドでの授業で評価が難しい面があり、デジタル化は更に進む前提で、どのように取り組んでいくべきかを検討していただければ良いと考える。

### 5. 生活指導について

生活指導全般に高い評価が得られているが、保護者の評価が低い傾向にある。生活指導についてもどのような考え方で取り組んでいるかを保護者に伝える工夫があつた方が良いと考える。

### 6. 学校行事について

全般に高い評価を得ており学校行事に関してはかなり高い成果をあげていると言える。

### 7. キャリア教育について

本項目についての評価は児童、保護者共に高くない。現在の取り組みが将来につながらないということでは無いと考えられるので、児童、保護者に体系的に分かりやすくキャリア教育について提示したら良いと考える。

### 8. 学校運営について

今年度の評価は高く、重点目標も代澤の工夫でよく保護者、地域に伝わっている。学校運営の努力が評価されていると考えられる。今後も努力を続けていただきたい。

### 9. 教職員について

相談のしやすさの児童評価が前年 6%、本年 9%低下した。高学年の児童は何でも先生に相談ではないが、児童の観察とコミュニケーション重視の姿勢で信頼関係を構築して欲しい。

### 10. 学校からの情報提供について

本項目については保護者、地域共に全般的に高い評価が得られた。一方学び舎の啓発についての評価は低評価の中、更に低下が見られる。更に学校及び学舎全体での工夫が求められる。

#### 1 1. 学校の安全性について

保護者、地域共に高評価で取り組みとしては問題無いと考えられる。安全が確保された中で更に地域との連携を進めて欲しい。

#### 1 2. 学校生活全般

学校行事が楽しいに比べ、学校が好きは 80%を下回り、学校の魅力を伝える工夫が求められると感じた。昨年に引き続き保護者の子供の自主的な家庭学習に 40%否定的回答と課題が見られた。自由回答と組み合わせると自宅でのタブレット使用時間の長さを危惧していることが伺える。何らかの説明・対応が必要かもしれない。

#### 1 3. 最後に

色々と細かい点の指摘・提言をしていますが、全部をくまなく取り組むのではなく、重点化、働き方改革とのバランスを取りながら今後の学校運営に活かしていただければと思います。